

幼・小接続期「かがく」の研究

稲田 佳子



🔍 キーワード

自然事象 数量・図形 幼・小連携

🔍 主張

幼・小接続期「かがく」では、自然事象の中の数量・図形を使うと自然事象との遊びがもっと楽しくなるという新たな認識を創りあげる子どもを求める。

子どもたちが自然事象とのかかわりが楽しいと感じる背景には、数量・図形が存在している。

自然事象とのかかわりが楽しい、もっとかかわりたいという「自然大好き」な子どもを育てるためには、かかわりを楽しくする方法を子ども自らがみつける経験を積んでいくことが必要だと考える。

そこで、本研究では、科学に関する内容（自然事象と数量・図形）を扱う。数量・図形への気づきを全体に広げたり、数量・図形を提示したりするなど教師の適切な働きかけにより自然事象の中の数量・図形へ着目して、自然事象の性質や規則性、法則性に目を向けていくようにする。自然事象の性質や規則性、法則性を使って遊びが楽しくなる方法を見出して、もっと楽しく遊んでいこうとすると考えた。